



春期展示作品：二の丸御殿〈黒書院〉牡丹の間障壁画《牡丹図》

**文化庁移転記念事業 令和5年度 春・夏期「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開について**

二条城二の丸御殿の障壁画は、後水尾天皇の行幸に先立ち、徳川將軍家が寛永元年から3年（1624～26）にかけて行った大改修の際、狩野探幽率いる狩野派の絵師たちによって描かれました。二条城では、これらの障壁画の模写を制作して原画（オリジナル）とはめかえ、原画は「二条城障壁画 展示収蔵館」において収蔵し、順次、展示公開しています。

この度、令和5年度春・夏期の原画公開を下記の通り、開催します。春期には、行幸時に公家たちの饗応の場となった〈黒書院〉牡丹の間の障壁画を展示します。牡丹の間障壁画《牡丹図》のうち北側2面は、徳川家康が創建した時代の二条城障壁画の可能性が指摘されています。夏期には、天皇の使いである勅使を迎えた〈遠侍〉勅使の間の障壁画を公開します。勅使の間東面と北面は、令和3年度に模写のはめ替えが完了しました。

〈黒書院〉と〈遠侍〉勅使の間は、いずれも徳川幕府が、朝廷の関係者を迎え入れた場所です。幕府は、そこにどんな障壁画を描き、場を演出しようとしたのでしょうか。二の丸御殿では模写を、当館では原画を間近にご覧いただき、幕府と朝廷との関わりを美しく彩った空間を、是非ご体感ください。

## 記

**1 公開内容及び期間（詳細は別紙のとおり）**春期「花の回廊<sup>かいろう</sup> ～〈黒書院〉牡丹の間～」

令和5年4月20日（木）～6月18日（日）[60日間]

夏期「勅使を迎える青楓<sup>あおかえで</sup> ～〈遠侍〉勅使の間～」

令和5年7月13日（木）～9月10日（日）[60日間]

関連企画：特別入室〈大広間〉勅使の間（下段）（7月から8月の約30日間を予定）

## 2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分）※二条城の入城受付は午後4時まで。

## 3 場所

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館  
（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

## 4 入館料

100円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

## 5 問合せ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地  
TEL：(075) 841-0096 / FAX：(075) 802-6181

## 6 その他

令和5年度は、展示収蔵館設備改修予定があるため、秋以降に原画を公開する場合につきましても、改めて広報発表をさせていただきます。

### 【参考】「二条城障壁画 展示収蔵館」の概要

京都市では、二条城二の丸御殿障壁画の劣化を防ぐため昭和47年（1972）から障壁画の模写を行って、原画（オリジナル）とはめ替え、原画は収蔵庫で保存しています。昭和57年（1982）には1016面が、美術工芸品（絵画）として重要文化財に指定されました。

「二条城障壁画 展示収蔵館」は重要文化財二の丸御殿障壁画を恒久的に保存し、公開するために建設され、平成17年（2005）に開館しました。当館は、障壁画が御殿と同じ配置で収納される収蔵庫の一部を、ガラス越しに鑑賞できる画期的な設計となっています。エントランスホールでは、飾金具や城内から発掘された埋蔵文化財等を展示しています。



「二条城障壁画 展示収蔵館」外観



「二条城障壁画 展示収蔵館」内観（展示例）

## 世界遺産・二条城一口城主募金

世界共通の財産である世界遺産・二条城を次代へ保存・継承していくために、国宝・二の丸御殿をはじめとする文化財建造物等の本格修理を進めています。

今回の本格修理は、1603年徳川家康による築城以来の大修理であり、多大な資金と年数が必要になります。そのため修理にあたり、皆様の御理解と御支援を賜る“世界遺産・二条城一口城主募金”を募っております。多くの皆様の温かい御支援をお願い申し上げます。